

福井大学基金(羽ばたけ基金)[®]

活動報告書

2014.3



2023.3

福井大学を応援いただいている
皆様へのご報告です。



学長挨拶

一人ひとりが輝く福井大学を目指して



●学長 上田 孝典

福井大学は、教育学部、医学部、工学部、国際地域学部の4学部から成り、学生数5,000人、教職員数1,400人余りの小規模な大学ながら、活力ある大学づくりに取り組んでおります。それぞれの分野で多数の有為な人材を育成し、また、地域の特性等を踏まえた特色のある研究を進め、その成果を社会に還元するとともに、高度な医療活動を通して地域医療の向上に貢献することを目標に日々精励しております。

現在、福井県の教員数の4割、医師数の3割、エンジニアの3割が本学卒業生であり、「格致によりて人と社会の未来を拓く」の新理念に相応しい活躍をされております。今後ますます、新たな科学的価値の創出と優れた人材の育成を通して世界に貢献し、同時に、医療の岩機能の強化、産学連携活動など、地域にしっかりと軸足を置いた活動を実施していくことが福井大学の使命と考えております。

一方、わが国は今、急激な少子高齢化、経済規模の縮小、社会保障費の増加などにパンデミックも加わり、国力を維持していく上で厳しい状況に置かれております。このような社会情勢の中、大学の基盤的予算は年々削減され、新たな課題に対する自立的・戦略的投資の余地は極めて限られているのが現状です。

そこで、今後も地域に根ざした国立大学として、地域社会からの信頼と期待に応え、本学の使命を果たすためには、機動的な資金の確保が肝要であり、特に、将来の社会を背負って立つ意欲ある若者の育成を一層充実させるため、「福井大学基金」を創設し、これまで多くの皆さまからご支援をいただいております。

この基金は、福大ビジョン2040も念頭に、学生の修学支援のための奨学金の充実、次代を担う卓越高度専門職業人の育成、研究支援等を中心に活用することとしております。今回のコロナ禍でも学生支援のために大きな役割を果たし、特に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うアルバイト切りにより経済的に困窮した学生への本学独自の継続的な支援は、学生はもとより、文部科学省からも高く評価されております。

本活動報告書は、皆さまのご支援に基づく福井大学基金の活用状況とその成果をご報告申し上げるとともに、如何に本基金が重要であるかを改めてご理解賜うために作成いたしました。

皆様におかれましては、引き続き、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福井大学基金(羽ばたけ基金)[®]とは

福井大学基金は、2014年(平成26年)3月に創設されました。当初は、学生の修学支援とその他の二つの事業からスタートし、2019年(令和元年)7月から現在の基盤となる7事業となり、その後若手研究者の研究支援事業が増え、現在の8事業となっています。「羽ばたけ基金」の名称は、2019年夏に学内公募と選考を行った結果選ばれたもので、「福井大学基金へのご寄附は、単に学生のためだけでなく、福井大学の活性化、ひいてはふるさと福井の活性化に繋がります。」という意味です。

福井大学基金(羽ばたけ基金)は、福井大学が目指す「世界に通じる地方総合大学」と「社会から頼りにされる、活力ある大学」の実現のために活用させていただくもので、現在は、次の事業により構成されています。

令和5年4月1日時点の事業

- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| ①学生修学支援事業 | ⑤附属病院の応援 |
| ②学生・若手研究者研究支援事業 | ⑥教職大学院の応援 |
| ③卓越高度専門職業人育成・研究支援事業 | ⑦附属学園の応援 |
| ④グローバル化・地域振興支援事業 | ⑧工学部創立100周年記念事業及び工学系の教育・研究の応援 |

福井大学基金へのご寄附は、通常の振込やクレジットカード決済などの手続きに加え、福井県ふるさと納税やクラウドファンディング、リサイクル募金等の方法によっても可能です。

「ふるさと納税」の制度は、もともと福井県が提唱したもので、現在は福井県の「県内大学の魅力向上応援プロジェクト」から福井大学基金に寄附が出来るようになっており、皆様からのご寄附の5分の4が大学に補助金の形で交付される仕組みです。基本的には、寄附金額から2,000円を除いた額が所得税・住民税から控除されますので、税制上、非常に有利な方法となっています。

「クラウドファンディング」は、インターネットを通して自分の活動や夢を発信し、想いに共感した人や応援したいと思ってくれる人から資金を得る方法です。本学でも、医学部附属病院でこのプロジェクトを実施し、成功させています。この方法でも税制上の優遇措置が受けられます。

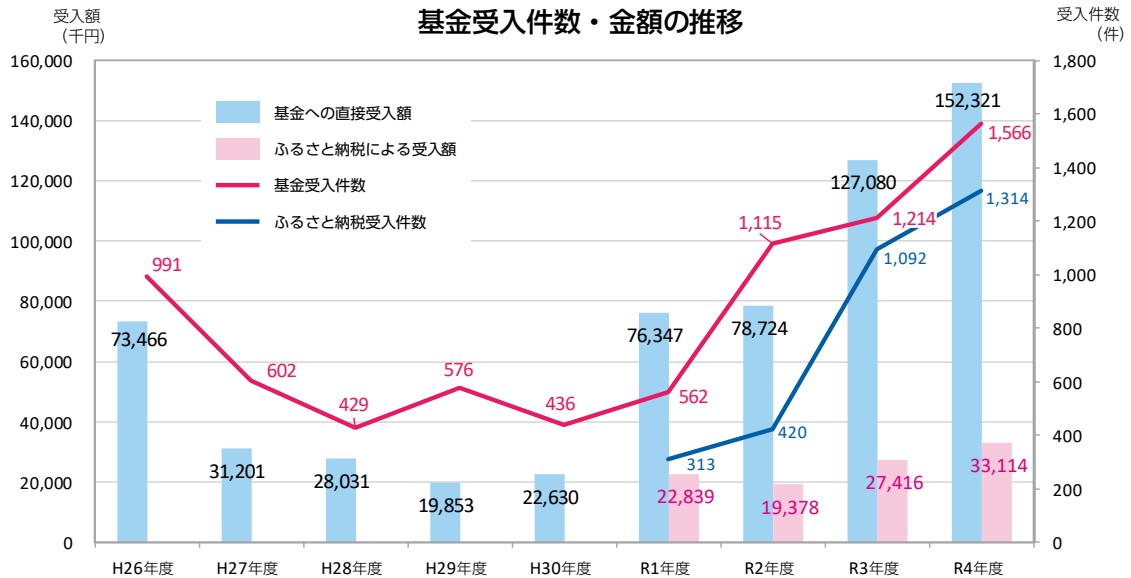
「リサイクル募金」は、不要な物品をリサイクルしていただくだけで、福井大学基金へのご寄附となるものです。

これらの詳細は、福井大学基金のホームページでご紹介させていただきます。



福井大学基金（羽ばたけ基金）[®] の状況

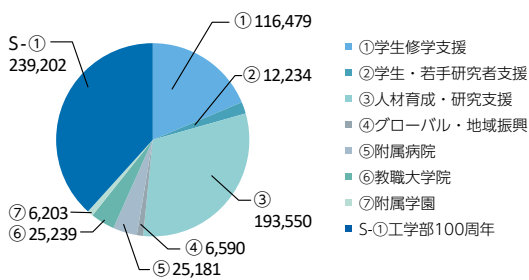
これまでの寄附受入推移



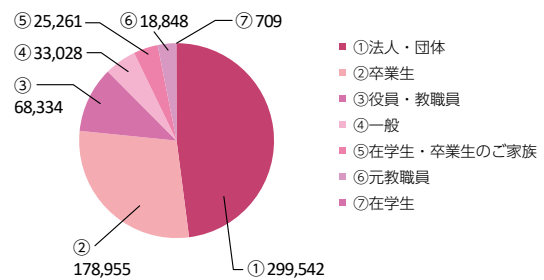
これまでの福井大学基金の受入れ状況

福井大学基金受入累計額（2014年度～2022年度）……6億2,468万円

【事業別 (単位:千円)】

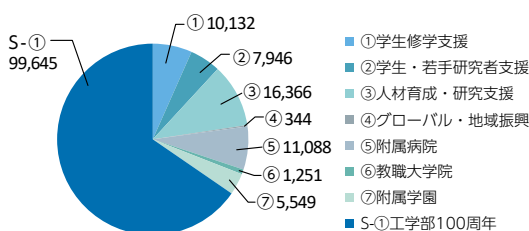


【寄附者別 (単位:千円)】

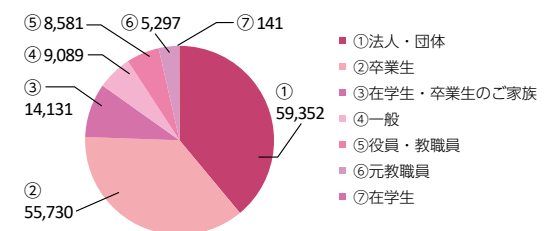


福井大学基金受入額（2022年度）……1億5,232万円

【事業別 (単位:千円)】



【寄附者別 (単位:千円)】



事業報告

■ 新型コロナウイルス感染症関連（全学・部局）

アルバイト収入減学生への修学等奨学金の支給

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うアルバイト切りにより、収入が減少した学生の生活の支援を継続中です。支援は毎月実施し、一人一月当たりの平均支給額は24,800円です。

支援学生数 **延べ1,463名** 支援額 **3,600万円**

多くの寄附者の皆様からのメッセージと学生からの感謝の声が届いています。こちらからご覧ください。



●感謝のメッセージ

感染拡大に伴い、アルバイトも行えず、学外のワークショップなど学びの場も制限され、悔しい思いをしていました。しかし、この奨学金を受給させて頂き、支えて下さった方の心の温かさに触れ、改めてこの大学に入学してよかったと感じました。福井大学基金に携わる皆様に重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。(工学研究科1年 山本聡太)

●困窮する学生の声とそれを救う本学の奨学金

食に対する支援

コロナ禍の学生生活サポートのため、食の支援を行いました。ふるさと納税による学生支援へのご寄附や国からの助成金を活用して、手軽に食べられる食料品セットを配布しました。

支援学生数 **525名 (R4年度)** 支援額 **540万円**



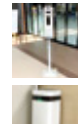
●学生に食料品セットを配布の様子



学内での感染予防と拡大防止対策、遠隔授業実施支援

ふるさと納税によるご寄附により、講義室等に、感染予防対策の空気清浄機・手指消毒器・飛沫防止パネルを設置しました。オンライン授業支援では、遠隔授業用システムの設置・受講用貸出パソコンを整備しました。また、インフルエンザとの混合感染予防の予防接種費用やPCR検査費用（自己負担分）を補助し、学生を全面的に守る支援を行いました。

支援額 **1,296万円**



●空気清浄機の設置



●密を避けるための講義室間連携システム

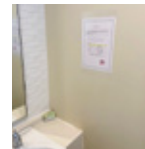


●遠隔授業用貸出パソコン

生理用品支給

コロナ禍などによる経済困窮から「生理の貧困」が世界的問題となっている昨今、卒業生の方から、生理用品配付のためのご寄附をいただきました。「今の自分があるのは福井大学で学んだからです。今、同じ福井大学で将来の何かを目指している学生さんのお力になりたいです。」というメッセージもいただきました。配付は各キャンパスで行い、学生は皆喜んでいました。

支援額 **127万円**



●生理用品配付とお知らせ



臨床・臨地実習生への緊急学生修学支援給付型奨学金の支給（医学部）

コロナ禍の中、医学部学生に必須の臨床・臨地実習を安全に行うため、実習中の学生の特定のアルバイトを禁止したことにより収入が減少して生活に困る学生に毎月3万円の支援を行っています。

支援学生数 **延べ36名** 支援額 **108万円**

●感謝のメッセージ

奨学金のご支援を頂きまして誠に感謝しております。奨学金のご支援のおかげで、現在は臨地実習に専念し様々な学びを得ることができています。立派な医師として役に立てるよう今後も一層の努力を行ってまいります。ご支援をくださった全ての方々に心よりお礼申し上げます。(医学部医学科5年)

交換留学派遣中止学生へのオンラインプログラム提供支援（国際地域学部）

交換留学が卒業要件となっているグローバルアプローチの学生で、コロナ禍により留学を断念した学生に対し、交流大学のオンライン授業（プログラム）受講のための費用を支援しました。

支援学生数 **32名** (ヨーク大学、マラヤ大学、漢陽大校等)

支援額 **144.6万円**

●感謝のメッセージ

留学を断念せざるを得なかった中、基金の支援を得て受講したプログラムは英語力を向上したい人にとって最適なプログラムで、得られるものは大きかったです。ご支援にお礼申し上げます。(国際地域学部3年)

■ 学生修学支援事業関連

予約型奨学金の支給

福井大学への進学を強く希望する成績優秀者で、経済的支援が必要な学生を支援しています。

支援学生数 **8名**

支援額 **240万円** (一人30万円)

●感謝のメッセージ

私はがん看護専門看護師になりたいという夢を持って、医学部看護学科に入学しました。奨学金のおかげで、充実した大学1年生生活を送ることができました。2年次には看護学生として、更に一人の大人としてグレードアップできるよう、日々精進していきます。(医学部看護学科 隠居萌々香)



学生修学支援奨学金の支給

授業料全額免除有資格者で、国の予算の都合上、半額免除となっている学生を支援しています。

支援学生数 **108名**

支援額 **180万円** (一人10万円)

●感謝のメッセージ

この度は、奨学金をいただき誠にありがとうございます。お陰様で学業に一生懸命取り組むことができています。近況は、七月に教員採用試験を第三学年でも受けることができるようになり、その勉強や今夏の教育実習に向けての準備等に日々精進しています。最後になりますが、奨学金ありがとうございました。(教育学部 荒尾智哉)



キャンパスライフの支援(学生交流の場の提供)

ランチタイムのキッチンカー導入経費の補助により、学生食堂の混雑緩和と屋外での学生交流の場の提供を行い、キャンパスライフの楽しみ作りに一役買っています。

支援額 **約100万円**



●キッチンカーに並ぶ学生たち

■ 高度専門職業人育成 (各部局)

連合教職開発研究科奨学金の支給(教育学部)

福井大学教育学部を卒業し、連合教職開発研究科入学者選抜等における成績が優秀な次世代の教育を担う大学院生の修学のため奨学金による経済支援を行っています。

支援学生数 **13名** (R2年度6名、R3年度3名、R4年度4名)

支援額 **183.3万円** (一人14.1万円)

●感謝のメッセージ

教職大学院ではインターンとして学校現場に入っている中で、学部時代に比べ学業とアルバイト等の両立がより難しくなりました。そんな中、支援のおかげで「より良い教師になる」という終わらない夢に思う存分取り組むことができました。皆様から頂いたご支援を地元福井の未来の子ども達へ還元していこうと思います。(連合教職開発研究科1年)

海外留学奨学金の支給(医学部・大学院医学系研究科)

海外の大学・研究施設等への留学を希望する学生への支援を行っています。

支援学生数 **8名** (R元年度6名、R2年度2名)

支援額 **40万円**



●留学先の仲間との記念写真
イルクーツク州立医科大学にて(左)
リュブリャナ大学にて(右)

課外活動(サークル)の支援(医学部)

医学部管弦楽団にいただいたご寄附を、定期演奏会開催に向けた準備のために活用しています。

支援額 **10万円**



医学部基金学生支援奨学金の支給

多浪生や編入学生5名へ経済的支援を行っています。

支援者数 **8名** (R2年度2名、R3年度3名、R4年度3名)

支援額 **80万円** (一人10万円)

●感謝のメッセージ

奨学金のおかげで、負担が軽減され、教育環境が向上しました。学費や教材費の負担が軽くなり、学びに集中できました。また、先端的な研究や実習に参加する機会も得られ、将来の医療への貢献の基盤を築きました。医療の分野で貢献できるよう努力し続けます。(医学部医学科4年 石床竜一)

工学部学生海外派遣支援金の支給

グローバル人材育成推進を目的に、海外長期インターンシップや短期派遣プログラムに参加する学生に支援金を支給しています。

支援学生数 **長期：5名** (オーストラリア、アメリカ、台湾、フランス) 支援額 **119万円**
 支援学生数 **短期：7名** (マレーシア、タイ) 支援額 **42万円**



● フランス・リヨン繊維・化学技術院(左)
台湾・国立成功大学(右)

工学研究科博士後期課程私費外国人留学生修学支援奨学金の支給

私費外国人留学生で、博士後期課程に入学する1年次生の支援を行っています。

支援学生数 **18名**
 支援額 **1,029.6万円**

●感謝のメッセージ

貴学からの支援に心から感謝しております。奨学金のおかげで、私は学業に集中することができ、将来の夢に向かって頑張ることができました。これからもう一生懸命勉強に励み、社会に貢献したいと思えます。(工学研究科博士後期課程3年 SHEN ZHITONG)



研究支援事業

エンジニアマテリアル研究の支援(工学系教員対象)

工学系の重点研究分野である繊維・マテリアル分野をはじめ、次世代のものづくりに不可欠なマテリアルの開発、特性評価やそれらの応用研究を推進し、先進的研究の創出と育成を目的に研究課題を公募し、採択された若手研究者の研究活動費を支援しています。

支援者数 **6名** (R3年度3名、R4年度3名) 支援額 **80万円**



● 溶液粘度の制御を実現した研究(生物応用化学 松本篤助教)

「国」プロ研究の「結実」に向けた支援(産学官連携本部)

文部科学省の地域イノベーションエコシステム形成プログラムの地元民間企業との共同開発、共同研究を推進するため、若手研究員を配置するための人件費を支援し、福井大学発技術シーズを広く社会へアピールしています。

支援額 **625.9万円**



● 超小型レーザープロジェクター
大学発革新的技術シーズ

若手研究者育成のための支援

科研費「若手研究」の採択を目指し、若手研究者の研究活動費を支援しています。

支援者数 **11名** 支援額 **218万円**



● ご支援により購入した研究用器具等

グローバル化・地域振興支援事業

福井大学基金では、地域のグローバル化対応支援や地域振興に取り組む学生・教職員の活動を支援しています。

グローバル化対応のための教職員の活動支援

〈研修報告〉2022年8月から2023年2月の半年間、国際地域マネジメント研究科の海外実地研修を通じ、パリにあるUNESCO本部に研修生として勤務する機会をいただいた。UNESCOでは人事部に所属し、各国政府や学術機関から派遣される出向者や国連ボランティアの受入れ業務を経験した。また国際移住機関、フランス外務省との共催で国連機関に勤める職員を対象としたイベントの開催にあたり、窓口担当として準備から本番、フォローアップまで携わることができた。

「国連機関」や「多国籍チーム」と聞くと、華やかでキラキラした世界のようにも感じられるが、実際には予想以上の根気と寛容な心、そして時には言うべきことを言う力強さが必要となる。また、必ずしも効率ではないし、予定調和は全くない。しかし、異なる強みを持つ人間が集まって仕事をすると、最終的には不思議なくらい面白いものができあがる。身をもってそのプロセスを学ぶことができた。

今回の研修を通じて得たものは多く、学んだことを職場に還元するため、何ができるかを考える機会にもなった。(松尾あずさ)



● 研修生として所属していた人事部LPDチーム

支援額 **40万円**

TOPICS DAYS OF SCIENCE IN ZAPORIZHZHIA (ウクライナへの支援)

R5.2～3月に招聘した原子力安全問題等専門のウクライナ人女性研究者4名の母国での住民支援活動応援のため学長発案で募金を行い、「応援金」として贈呈した52万円余りが、5/20、21にザポリージャで開催された「科学の日」のために活用されました。これは、戦時下であっても子供たちや若者に科学活動を奨励し、鼓舞することを願うイベントで、彼女らの「ウクライナの子どもが元気になるように」との思いから実現しました。



■ 特定の部局のプロジェクト支援

附属病院の応援 (クラウドファンディング)

不妊治療を支える：患者・かかりつけ医・生殖センターをつなぐ医療連携システム構築へ

寄附者数

162名 (募集終了日:2022年6月30日)

寄附総額

9,044,000円 (目標金額 5,000,000円)

不妊治療に通う患者さんの負担を軽減し、少しでも早く妊娠・出産に導くための、地域を挙げた「医療連携システム」を構築するために、クラウドファンディングを立ち上げたところ、予想をはるかに上回る、多くのあたたかいご支援を賜りました。ご賛同いただいた皆さまには、心より感謝申し上げます。

私たちは、くすりと検査は近くのかかりつけ医、人工授精や体外受精・顕微授精は生殖センターに役割分担することで、患者さんの移動や負担を減らしつつ、最適な不妊治療を提供する地域完結型の生殖医療ネットワークを目指しています。皆さまから頂戴したご支援は、患者さんの受診相談 (SNS) や、かかりつけ医とセンターをつなぐアプリ、ビデオ通話など、デジタル情報技術を応用した医療連携システムの構築に充てさせていただきます。

共働き率が日本一の福井県だからこそ、「不妊治療も仕事もあきらめない」このプロジェクトに意義があると思います。私たちの高度生殖医療センターには、最新・最適な生殖医療を提供するだけでなく、患者さんのサポートや、地域の診療レベルアップ、若い世代への情報発信、人材育成といった、公的 (パブリック) な役割があると考えています。ご支援を賜りました全ての皆さまには、重ねて御礼申し上げます。

(医学部附属病院高度生殖医療センター 吉田 好雄)



教職大学院の応援

教職大学院次世代教育創成基金 (連合教職開発研究科修学支援)

連合教職開発研究科入学者で、入学選抜等における成績が優秀な次世代の教育を担う院生の修学のため奨学金による経済支援を行っています。

支援学生数

11名 (R3年度5名、R4年度6名)

支援額

220万円 (R3、R4年度合計)

附属学園の応援

附属義務教育学校では、後期課程 (中学校) 校舎の改修にあたり、新しい教育スタイルに対応し、教員養成フラッグシップ大学にふさわしい附属学校にするための募金を開始しました。附属学園をご卒業の皆様、是非、ご協力をお願いします。

活用内容

- ・義務教育学校全体の設備工事費
- ・デジタル環境整備
- ・給食調理室整備
- ・教育環境整備

目標額

1億円

募集期間

令和7年3月まで



工学部創立100周年記念事業及び工学系の教育・研究の応援

福井大学工学部では、2023年12月に創立100周年を迎えるにあたり、福井大学基金で記念事業募金をお願いしております。ご協力をどうぞお願いいたします。

記念事業の内容

- ・100周年記念式典の開催 (2024年7月開催予定)
- ・100周年記念館の建設 (2024年3月竣工予定)
- ・工学部百年史の刊行
- ・教育研究支援基金の創設 など

目標額

3億円

これまでの寄附総額

約**2億4,300万円**

募集期間

令和7年3月まで

福井大学基金へのご寄附により、記念施設の一部 (講義室 223L) が整備されました。学生コンペにより設計された劇場型講義室となっています。



● 100周年記念施設イメージ



税制上の優遇措置

福井大学基金に直接ご寄附いただいた場合

福井大学基金への個人からのご寄附は、所得税控除が適用され、寄附金額（総所得金額の40%が上限）から2,000円を差し引いた額が課税所得から控除されます。

さらに、学生への修学支援事業や、若手研究者等研究支援事業については、税額控除制度の適用を受けることが出来、寄附金額（総所得金額の40%が上限）から2,000円を差し引いた額の40%を所得税額から控除（所得税額の25%が上限）することが出来、所得税控除と比較し、いずれか有利な方法をご選択いただけます。

さらに、福井県にお住まいの方については、寄附金額（総所得金額の30%が上限）から2,000円を差し引いた額の10%が住民税から控除されます。

福井県ふるさと納税を通じて福井大学基金にご寄附いただいた場合

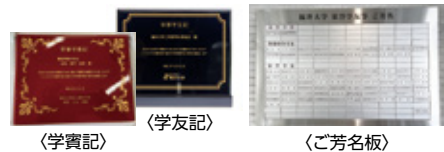


福井大学基金へは福井県ふるさと納税を通じてもご寄附いただけます。ふるさと納税は、寄附額のうち2,000円を越える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度です（一定の上限はあります）。例えば、年収700万円の給与所得者の方で扶養家族が配偶者のみの場合、30,000円のふるさと納税を行うと、2,000円を超える部分である28,000円(30,000円-2,000円)が所得税と住民税から控除されます。

顕彰制度

称号の贈呈・ご芳名の掲載

福井大学基金へのご寄附の総額が一定額以上となった方に「特別栄誉学資」「栄誉学資」「特別栄誉学友」「栄誉学友」の称号をお贈りしており、これまでの贈呈実績は、39個人、74法人・団体となっています。また、ご芳名をご芳名版に刻み、末永く顕彰させていただいています。



称号贈呈式、感謝の集い

本学に顕著な財政的支援をいただいた個人、団体に対し、敬意と感謝の意を表するため、「称号並びに感謝状贈呈式」と「感謝の集い」を開催しています。（ご寄附の累計額が10万円以上若しくは4回以上の個人の方、累計額が30万円以上の法人に感謝状を贈呈させていただいています。）



〈特別栄誉学友称号の贈呈〉



〈称号贈呈式・感謝の集い 記念撮影〉



〈感謝の集いでご支援への感謝を述べる学生〉

●感謝のメッセージ

この度は奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。当時は経済的にも苦しく、さらに家族の入院が重なり、私を含め兄弟3人の学費の負担が困難になりました。そんな中、奨学金のおかげで、学費にあてることができ、学業に専念することができました。今では、勉強だけでなく、積極的に福井大学生限定のイベントやセミナーなどに参加することができ、沢山のことを吸収し、充実した大学生活を送ることができています。この先も、皆様から支えられてきたこと、支えられて安心して過ごすことができることを忘れず、生きていきます。（工学部応用物理学科3年 橋本美羽）



紺綬褒章

紺綬褒章は公益のために私財を寄附した個人、法人・団体に、国が授与するものです。個人は500万円以上、法人・団体は1,000万円以上のご寄附が対象になります。

（これまでに福井大学基金に多額の寄附をされて紺綬褒章を授与された方） **個人 2名** **法人 5法人**



〈紺綬褒章の伝達〉

お問合せ先

福井大学基金事務局

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号
 <E-mail> lkikin@ad.u-fukui.ac.jp <電話> 0776-27-9903

